▲ 磐梯町で提携書を取り交わした
佐藤淳一（さとうじゅんいち）磐梯町長（左）と齊藤啓輔余市町長（右）

福島県磐梯町と交流都市提携を締結

９月１８日、福島県磐梯町（ばんだいまち）と交流都市提携を締結しました。磐梯町は、会津地方に位置し、磐梯山をはじめとする豊かな自然や「名水のまち」として知られる地域です。また、慧日寺（えにちじ）跡など、歴史や文化を感じられる魅力もあります。

これまでの交流で培ってきたつながりをさらに深め、文化・教育・芸術・経済など、さまざまな分野で交流を進めていきます。

今後は、相互訪問や交流を通じ、それぞれの地域の魅力や強みを学び合い、新たな取り組みに繋げていきます。

▲「フルーツ・シャトーよいち」で実施された避難訓練

要支援者避難支援訓練を実施

１０月２日、大雨による洪水を想定した訓練を余市消防署、余市消防団、海上自衛隊、福祉避難所（余市養護学校、フルーツ・シャトーよいち）、大川町第４区会、大川町第７区会の参加により実施しました。

現在作成を進めている個別避難計画に基づき、避難支援の手順確認や課題抽出を行ったほか、訓練後には参加者による振り返りを実施しました。

今後も関係機関との連携強化や防災技術力の向上を図るとともに、地域住民の防災意識の向上に取り組んでいきます。

余市町 地域おこし協力隊リポート

石田隊員が地域おこし協力隊員の取組や活動の様子をお伝えします

▲ ブドウの収穫作業

はじめまして。今年４月に着任した余市町地域おこし協力隊の石田一樹（いしだかずき）です。

私は大阪府出身で、以前は札幌市内のワインショップで働いていました。北海道のワインに魅了され、「どうしても自分でワインを造りたい」という思いが強くなり、将来のワイナリー開業を目指して地域おこし協力隊として余市町へ移住しました。ブドウ栽培やワインづくりについて学びながら活動しています。

現在、余市町には７名の地域おこし協力隊員がおり、それぞれが異なる分野で活動しています。このリポートでは、地域おこし協力隊の活動や魅力を皆さんに知っていただけるよう、定期的にお伝えしていきます。

今回は、その第１回として私自身の活動をご紹介します。

普段は梅川町にあるブドウ畑で指導を受けながら栽培技術や農作業を学ぶ一方、週に一度は駅前の飲食店でソムリエとして働いています。

今はブドウの収穫シーズン真っ只中です。先日、登町のワイナリーで収穫作業をお手伝いした際には、道内だけでなく長崎県や岡山県など全国各地から多くの方が参加していました。

また、飲食店には余市のワインを目当てに来られる方も多く、台湾や香港、中国、韓国などアジア各地から訪れたお客様とお話しする機会もあり、余市のワインが国内外から高い注目を集めていることを日々実感しています。

こうした活動を通して感じた余市のワインやまちの魅力を、今後このリポートで皆さんにお伝えしていきます。次回のリポートもどうぞお楽しみに！